

「駆除」か「共生」か。

被害防止 私たちができること

「全ての鳥獣に万全な対策はなかなかありません。被害にあつた農作物は何なのか、場所はどこなのか。その地域・場所にあった正しい対策が必要です」と話すのは、鳥根県東部農林振興センター・雲南事務所の梶誠吾さん。鳥獣専門調査・指導員として、飯南町、雲南市、奥出雲町の被害対策の指導などに関わっています。

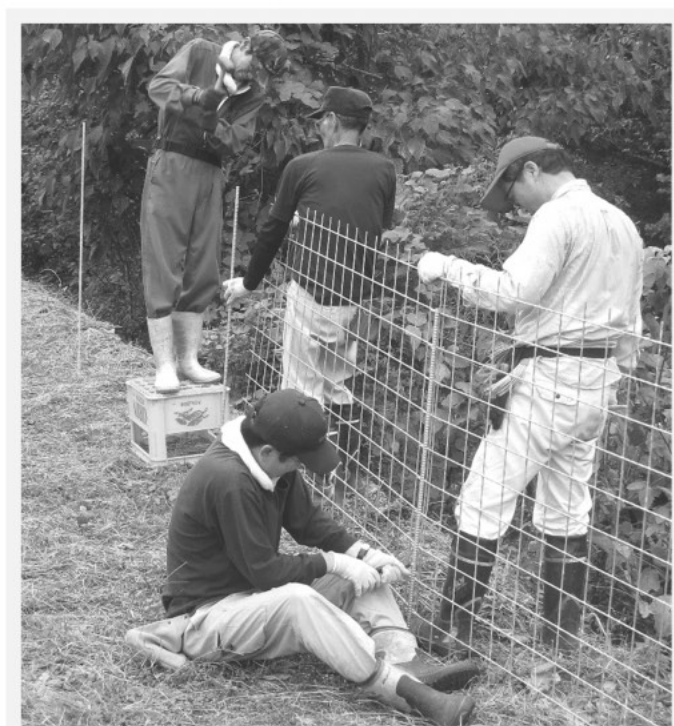
- ① 動物たちが、安心して寝られる場所をなくす
 - ② 集落の近くに食べ物をなくす
 - ③ 動物の種類や習性を知る
- ①は、人家の周りの草やササを放置しないこと。人から隠れる環境は、格好の寝床になります。
- ②は、果樹などの採り残しをなくすこと、残飯を動物に食べられないように処理すること。
- ③は、正しい知識を身につけることが大切です。しかし、「昔からの言い伝えのような、正しい情報が今でも定着しているのが現状」と梶さんは話します。



鳥根県東部農林振興センター 梶誠吾さん

「駆除」か「共生」か

「被害防止対策は駆除が全てではありません。動物たちが生活するところを奥山に確保して、動物たちと人の住む場所の『すみ分け』を進めることも必要です。例えばメッシュを張って『ここから先は人が生活しているところですよ』ということを動物たちに分かってもらおう。でもその実行には、たっくさんの人の力、地域の力が必要です」と梶さん。



地域全体で取り組む



イノシシの集団下校とでも言うべきか…。(撮影地:町内)

低脂肪・低カロリー・高タンパクのイノシシ肉

グランディア赤名峠の奥野佳代子さん

イベントではいつも、多くのお客さんにぎわう

肉をおいしく活用する!

イベント会場に漂う食欲をそそる香り。香りの正体「いのししラーメン」を提供するのは、「グランディア赤名峠」の皆さんです。

代表の奥野佳代子さんは、「トッピングのイノシシ肉は、ちょっとピリ辛の味付けが人気なんよ」と声を弾ませます。グランディア赤名峠では、ラーメンのほか、ふるさと納税の返礼品でも人気のぼたん鍋セットや、肉まん、ソーセージ、コロッケなど、イノシシ肉を活用した商品を製造・販売しています。「将来は、イノシシ肉を、牛肉や豚肉と同じように、スーパーに並ぶおなじみの肉にしたい」と奥野さん。

「いのししラーメン」ののれんを見つけたら、皆さんもぜひ立ち寄りみてください!

「鳥獣被害対策の『鍵』」

今、町内では、メッシュで集落全体を囲うなど、被害防止対策は、近隣市町村と比べても進んでいると言われます。

しかし、メッシュは張り巡らして終わりではなく、その後の管理が必要です。管理を怠れば、草が生い茂り、そこに獣たちが近づきやすくなります。

梶さんは、「鳥獣被害防止対策の行き着くところは『地域振興・集落の維持』だ」と言います。人口減少、高齢化が進む中、地域や集落を維持し、盛り上げていくことが、鳥獣被害を少なくする「鍵」なのかもしれません。